

---

# 東方短紅魔

家主

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方短紅魔

### 【Nコード】

N7141G

### 【作者名】

家主

### 【あらすじ】

よつするに、紅魔館をオリキャラにやらせてみました的なお話です。詳しくはstage0の前書き参照で

## stage 0 (前書き)

どうも、はじめまして家主こと作者です

では、説明を少し

なおこの説明を読んで自分に合わない、嫌悪感を感じるだろうと予想出来た方はすぐにwebから離脱して下さい

- ・オリキャラが出ます
- ・各キャラが多少、私流に変換されています
- ・描写が下手くそです
- ・出来る限り原作基準のつもりですが、気付かずに原作無視な内容になるかも知れません
- ・多少の二次設定が入ります
- ・短いです

ゲームをやった事のない人は分かりづらくゲームをやった事のある人は違和感を感じる、そんな作品になると思います

## stage 0

幻想郷、人間の里

そこにこじんまりとした神社が1つ  
名を不破神社

妖怪と出会う道を通らなければならぬ博麗神社の代わり、いわば  
博麗神社の派出所である

人間の里に妖怪が現れないよう管理しているのもこの不破神社の役  
目である

『破られ不』の神社、故に不破神社なのである

そんな神社にも巫女が1人いた  
名を不破 晴菜<sup>はるな</sup>

博麗の巫女と同じく紅白の、何故か分からないが腋のない装束を身  
につけている

黒髪は長く、すらつとした出で立ちである

彼女も博麗の巫女のように弾幕やスペルカードが扱えるのである

……多少ではあるが

そんな彼女の物語は、里が紅い霧に覆われるという『異変』の知ら  
せを博麗の巫女に伝えるため、博麗神社へと向かうところから始ま  
るのである

「お札オツケー！スペルカードオツケー！行ってきまーす！」

さて、時間は少し進み  
博麗神社についた不破の巫女 晴菜ではあったが人がいない  
噂によると、博麗の巫女は殆ど博麗神社から離れる事はないらしい  
のでいるはずなのだが

「はあ………何でいないのよあ〜」

先ほどから『らしい』等と推測が目立つのだが、それは晴菜が博麗  
の巫女と会った事がない事を原因とする  
晴菜が不破の巫女となってしばらくたつが、異変らしい異変もなけ  
れば里が妖怪に襲われる等という事もなくのんびりと過ごしてきた  
のである

そして晴菜もそれを当たり前と知っているのであり

「やっぱり伝えないとマズいわよね………」

さっさと仕事を終わらしてお茶でもすすりたいと考えているのであ  
った

「博麗の巫女はどこいったのかしら………聞き回るしかないのかしら」

ため息をつき、空を飛ぶ

目指す場所はなく、とりあえず真っ直ぐに飛ぶのであった

## stage 0 (後書き)

どうも、作者こと家主です  
簡単ですが、設定はだいたいこんな感じですよ

不破晴菜 / Haruna Fuwa

護る程度の能力

酒が飲める程度の年頃

博麗神社の場所が場所のため、普通の人は簡単に行くことが出来な  
いし連絡も取りづらい

更に博麗神社からも管理がし辛い

そのために出て来た分社、不破神社の巫女

ちなみに晴菜自体は巫女になりたて

スペルカードは扱える

分社である事に多少のコンプレックスあり

だいたい、こんな感じですよ

オリジナル設定ありすぎですね

……ところで、幻想郷では何歳から飲酒可能なんですよ？

## stage 1 (前書き)

どうも、家主こと作者です

いよいよ、原作キャラが出ます  
そしてスペカも

ちなみに、区別する為にスペカは

【戦操「ドールズウォー」】  
こんな書き方をしています

なんでアリスのスペカかって？  
手元にあつたからです

緋想天符録

## stage 1

ふらふらと飛んでいけば、同じようにふらふらと飛んでいる少女に出会った

黒を基調とした服装の、割合幼い少女だ  
赤いリボンが可愛らしい

「ちょっとそこの！」

「わたしー？」

「そう、わたし。私と同じような服装の女の子、見なかった？」

「見た見た、さっき会ったところ」

「えっ！」

いきなりの大当たり

これならすぐに帰れそうである

「って事はアナタは食べてもいい人類？」

「……っ!？」

どうやら目の前の少女、妖怪 しかも食人種らしい

「良薬は口に苦いのよっ。」

とりあえずの悪態

このままスペルカード戦になっただとしても、なにしろ初なので少し怖かったりする

「そーなのかー。でも、それ博麗の巫女も言ってたよー？」  
「うげえ」

晴菜はあまり博麗の巫女の事をあまり良く思ってたなかったりする

「行くよー？【夜符「ナイトバード」】！」

少女の周りの暗がりが集まり、漆黒の鳥の形を成して飛んでくる

「ち、ちよっ!?!」

突然の事に慌ててスペルカードの用意をする

「えっと……【盾符「不破之盾」】！」

晴菜の前には、晴菜よりも巨大な盾が現れ少女の放ったスペルカー

ドの攻撃を弾いていく

「あれ？当たってない？」

盾に弾かれた闇が、逆に少女の視界を遮り晴菜の姿を隠してしまっ  
たらしい

「貰ったあー!!」

「わっ!?!」

闇をかき分けて現れた晴菜に驚いた様子の少女  
そのままお札をつきつけられる

「【破魔

「悪霊退散」!」

お札を残して少女から離れる晴菜  
その瞬間

「わー!?!」

カッと閃光に包まれる

.....

「ケホツケホツ」

「どう？参った？」

「参ったよー」

少女から出た降参の一言にホッと一息

「で、博麗の巫女はどこにいったの？」

「あっち」

指差した先は、霧の湖

「あ、そう。ありがとね」

軽く礼だけ言っつてその場を去ろうとするが、再び少女の方を向き

「そう言えば、名前何て言っつなの？」

「ルーミアだよー」

初妖怪退治、相手はルーミア

「私は不破 晴菜。次会った時は襲わないですよ？」

「うん、覚えてたらね」

それを別れの挨拶として、別々の方向に散る晴菜とルーミアであった

stage 1 (後書き)

どうも、ルーミア可愛いよ、家主です

ルーミアになら食べられても(ry

「そーなのかー」

そーなんだー。でも食べないでねー？

「ところでこの話を書く前に紅魔やった？」

……だ、大丈夫。実は原作で『わはー』って言ったことないのは知ってるから

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7141g/>

---

東方短紅魔

2010年10月17日04時49分発行